



1、卒業生へのはなむけの言葉



帝京ロンドン学園を卒業される皆さんに、心よりお祝い申し上げます。

この学園で過ごした年月は、多様な文化に触れながら自己を磨き、友情を育んだ、かけがえのない時間であったことでしょう。皆さんが培ってきた、新しいことに一歩踏み出す勇氣、自分とは違う価値観を尊重する姿勢、そして探究心は、これからの人生において必ず大きな財産となります。校歌の一節にあるように、皆さんは「小さな不安を抱えて」いても、努力を重ね、友と支え合いながら、この地で確かな歩みを進めてきました。

新たなステージへ進む皆さんが、未来を恐れず、自信を持って力強く羽ばたいていくことを願っています。学園での経験を胸に、それぞれの道で輝かしい未来を切り拓いてください。皆さんのこれからのご活躍を、いつまでも応援しています。（学校長）



2、卒業証書授与式・終業式



3月2日（月）第35回卒業証書授与式が執り行われ、ご来賓の方をはじめ多くの皆さまにご祝辞や心温まるお言葉をいただき、最後に全員で校歌を歌い、10名の生徒が晴れて帝京ロンドン学園を巣立っていきました。卒業した皆さんの輝かしい未来と今後の活躍を、職員一同心より期待しています。その後は在校生の終業式があり、今年度を振り返る機会になりました。



3、イタリア研修旅行（研修旅行担当）

国際理解と主体的な学びを深めることを目的として、4泊5日のイタリア研修旅行を実施しました。



ローマ、ピサ、フィレンツェを巡り、歴史・芸術・文化を体験的に学ぶ充実したプログラムとなりました。ローマでは、コロッセオやコンスタンティヌス凱旋門、トレヴィの泉、パンテオンなどの世界遺産を訪問し、古代ローマの歴史や建築のスケールを肌で感じました。ウォーキングツアーでは、現地ガイドの解説を聞きながら街を巡り、教室では得られない学びを深める機会となりました。また、ピザ作り体験や現地レストランでの食事を通して、イタリアの食文化にも触れました。



グループごとに街を歩き、事前に立てた計画をもとに観光地や食事場所を巡る活動では、生徒たちが主体的に行動し、協働する姿が多く見られました。フィレンツェではウフィッツ美術館を訪れ、ルネサンス美術の名作を鑑賞しました。ドゥオーモやヴェッキオ橋、中央市場などを巡ることで、街全体が歴史と文化の中にあることを実感する機会となりました。

滞在中は大きな体調不良や事故もなく、生徒たちは互いに協力しながら行動し、海外での集団生活や異文化理解の大切さを学びました。今回の研修旅行は、生徒一人ひとりにとって視野を広げる貴重な経験となりました。今後も本校では、教室での学びと実体験を結びつける教育活動を大切に、国際社会で活躍できる力の育成を目指してまいります。



4、作文コンテスト優秀作文（国語科）



イタリア研修旅行では、古代ローマやルネッサンスにゆかりの地を巡り、国際理解を深めるとともに、自主研修のグループ活動を通して仲間との協力や関係性を育む貴重な時間となりました。国語科では、この経験をさらに発展させるため、研修で得た気づきや感動を言語化し、学びを理解へとつなげる取り組みとして作文コンテストを実施し、教員が審査に参加しました。ここでは最優秀作品に選ばれた生徒の作文を紹介します。

1年 最優秀賞 聖母の微笑み

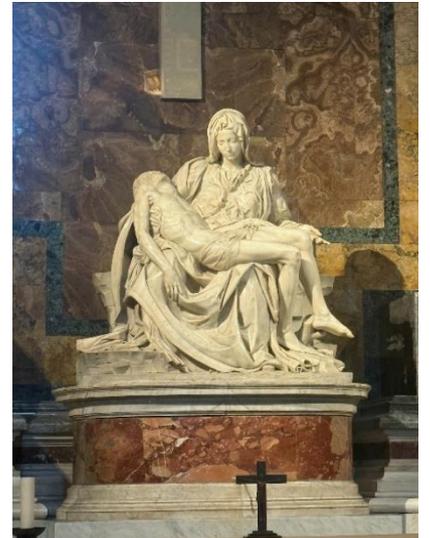
「真の原動力」とは何だろうか。辞書には「物事の活動の元となる力」とあるが、未熟な私にはその真意が掴めずにいた。しかし、人間が世を驚かせるものを創り上げ、失敗を恐れず命を捧げられるのは、そこに一種の美学を伴う「真の原動力」があるからではないだろうか。

私はその答えを求め、カトリック教会の総本山、バチカン市国へと赴いた。そこで目にした数々の彫刻は作者の魂の写し鏡のようであったが、中でも私の心を奪ったのは、若き天才ミケランジェロによる「サン・ピエトロのピエタ」である。その圧倒的な美しさと重厚感を前に、私は呼吸を忘れるほどの高揚感に包まれた。

ミケランジェロのピエタには、特異な点がある。本来、成人男性であるイエスを女性のマリアが抱えれば、彫刻としてのバランスは崩れやすい。しかし彼は、己の美学と信仰心という「真の原動力」に従い、マリアの体をあえて大きく造形することで完璧な調和を生み出した。その姿は、悲劇の中にあってもなお、見る者に微笑みかけているような錯覚さえ抱かせる。

この傑作は過去に二度の損傷を負っており、私たちが今、目にしているのは、五世紀前に彼が創り上げた「完全体」そのものではない。しかし、幾多の苦難を経てもなお絶えず微笑み続けるその事実は、作品をより神聖なものへと昇華させている。当時の芸術家たちが命懸けで心血を注ぎ、困難の中で己の意思を貫けたのは、神への信仰という確固たる原動力があったからに他ならない。

現代社会において、自分だけの「真の原動力」を見つけることは容易ではない。人間関係や進路に悩む若者は多いが、そんな時こそ先人たちの足跡に学ぶべきだと私は信じている。彼らが遺した遺物は、時に血にまみれ、時に愛に満ち、聖母の微笑みのように私たちを見守りながら、学びの機会を与えてくれている。今回の研修旅行で、私はまだ自分を燃やし続けるほどの原動力を見つけられてはいない。しかし、現地で学び続ける。その先にいつか、己の道を突き進むための「真の原動力」に出会える日が来ると確信している。



2年 最優秀賞 ちいさな信仰の証

昔の自分に会いに来た。そんな不思議な感覚に陥ったのはバチカン市国での話である。

バチカン市国はカトリック信者の総本山と呼ばれるほど、キリスト教と密接な関係にある国である。宗教や信仰とは何かと考えると、やはり目では見えないし、一言で説明できるものではなさそうだ。実際、私もミッションスクールに通いながらも、自分が何を信仰しているのか、また信仰とは何なのかピンとは来ていなかった。

でも、バチカン市国で時間を過ごす上で、自分の中に芽生えた不思議な感情があった。決定的だったのは売店でロザリオを見つけた時だった。鏡を見ていないのにも関わらず、自分の瞳が宝石のように輝いている事を実感した。いつもだったら値段を確認してしまう私の癖が出る前に、私の腕が勝手にロザリオを会計場所まで運んでいた。



ロザリオが綺麗だとか、建築に魅了されたとか、そんな簡単な話じゃない。すこし大げさなのかもしれないが、自分が当たり前としていた存在に改めて気づかされる、そんな体験だった。私にとってロザリオは、幼少期から当たり前のように欠かさず持っていたものである。キリスト教を信仰していたわけではなく、日常の一部として使用し、大事に扱ってきただけだった。それなのに、バチカン市国でロザリオと久しぶりに対面することで、昔の自分がどんなだったか、自分がキリスト教の教えを何に生かしてきたのかを、痛烈に感じた。昔の自分との再会。ふいに浮かんでくるうれしいようでどこか切ない感情は、昔の自分にどう声をかけたらよいかわからない、動揺から来たものだろう。

昔の自分を見つめなおすことで、自分にとってロザリオは私の小さな信仰の象徴であったことに気付かされた。自分が信じたいと思うもの、人生を形作る上でどうも心から引き離せない気持ちは、私の見出せなかった信仰という言葉に色彩を与えてくれた。信仰の事を勝手に私が定義することはしたくない。信仰の捉え方は人それぞれであるべきだと思う。ただ、私なりの答えを見つけただけだ。私の考え方や人生を作ってきたのは、そんな小さな信仰の心だったのかもしれない。

3年 最優秀賞 トレヴィの約束

白い大理石が水面に反射し、まばゆく光り輝くその姿に、私は思わず目を奪われた。目の前に広がる光景は、まるで映画『ローマの休日』の世界に迷い込んだかのようで、本当にここが2026年なのかと疑ってしまうほどだった。多くの人や歴史ある建物に囲まれているにもかかわらず、泉の中央に聳え立つ白い彫刻だけがひとときわ神々しく見えたのは、その存在感があまりにも強く、荘厳な姿だったからだろう。



大勢の観光客の中、私は友と肩を並べ、手の中のコインを握りしめた。私は、泉に右手から左肩に向かってコインを投げ入れればまたローマに戻って来られるという言い伝えを思い出しながらも、本当にそんなことがあるのだろうかとは半信半疑な気持ちを抱いていた。それでも、「せーの」という掛け声のもと、皆で一斉に右から左肩へとコインを投げた瞬間、先ほどまでの半信半疑な気持ちは消え去り、不思議と気持ちが一つになった感覚を覚えた。

水の中に消えていくコインを見つめながら、私はトレヴィの泉の迷信が今もなお言い継がれているのは、それがただの願掛けではなく、私たち全員で共有した小さな約束だからなのだと思った。卒業間近に訪れたイタリア研修で、この日、私たちは同じ景色を見て、同じ願いを込めた。この先、卒業し、たとえ違う道を歩むことになっても、この日の約束がまた私たちをつないでくれるのだろう、そう私は思った。

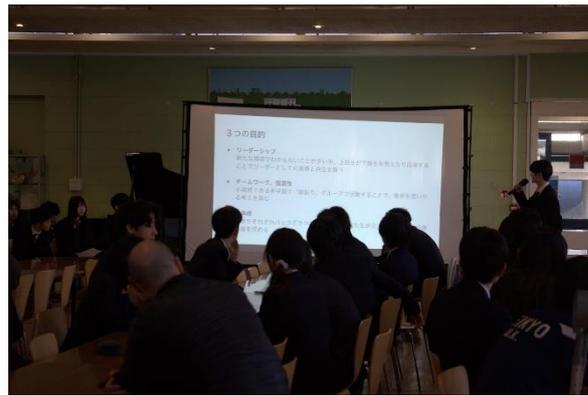
泉の中に沈むたくさんの金貨を眺めながら、私はこの旅が終わってしまうことに寂しさを感じた。しかし同時に、またここに帰って来たいという前向きな気持ちも胸に広がっていた。ローマは、憧れの場所から、確かに自分が立ち、思い出を刻んだ場所へと変わっていったのだ。またいつか、みんなでこのローマの地に帰って来る、その日まで。その日を信じて、私はトレヴィの泉を後にした。

5、生徒会総会（生徒会担当）

本校では、全校生徒がいずれかの委員会に所属し、学校運営の一端を担っています。先日行われた生徒総会では、各委員会より1年間の活動報告と次年度への引き継ぎが発表されました。

また、生徒会役員より、2026年度から導入される「ハウス制度」についての説明がありました。ハウス制度は、イギリス発祥の学校制度であり、映画『ハリー・ポッター』でも広く知られています。本校では、学年の枠を越えた縦割り編成により、3つのハウスに分かれて学校生活を送ります。今後、学園でのイベントではハウスごとのイベントも予定しており、学年間の交流を深めるとともに、主

体性や協調性の育成を目指してまいります。



6、クローズ・スワップ (ECO 委員会)



ECO 委員会では、水曜日の放課後にクローズスワッピングを開催しました。当日は多くの生徒が参加し、会場では衣類の交換が活発に行われました。終始にぎやかな雰囲気の中で、楽しみながら資源を大切にする意識を高める貴重な機会となりました。今回のイベントを通して、リユースの大切さや環境への配慮について、改めて考えるきっかけになったと思います。ご協力、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

7、St Bernard's との交流 (渉外課)



St Bernard's A Level students joined the Ko1 classes for the day. As Japanese learners, they had a brilliant time experiencing life in a Japanese high school. They were able to practise their language skills and build relationships with our students.



8、CAS/T-CAS 報告 (CAS/T-CAS 担当)

IB CASプログラム

IB 1 期生の CAS プロジェクトでは、学園の生徒やスタッフと協力して、ロンドンにあるおすすめの名所やレストランを紹介するマップを作成しました。「どこに行ったらいいかわからない」「いつも同じ場所にばかり行ってしまおう」というクラスメイトとの会話から生まれたプロジェクト、どのような場所を知りたいかアンケート調査をしたり、ポスターをつくらしたり、着想から半年近くかけて進めてきました。おすすめしてくれた人のコメントも楽しめ、これからも続いていくシステムを後輩たちに残してくれました。



Sky Garden
4.6 ★★★★★ (74,752) ⓘ
Scenic point - ☑
Closes soon - 12 am · Opens 8 am Thu

【無料】予約が取りにくいですが、ガーデンもあってカフェもあり、休憩もできます。これまで私が行った展望台の中で上位の展望台です。



Immersive Gamebox - Southbank, London
4.9 ★★★★★ (4,710) ⓘ
Tourist attraction - ☑
Closed · Opens 1 pm Thu

Good place to play interactive games. Need to book before you go!



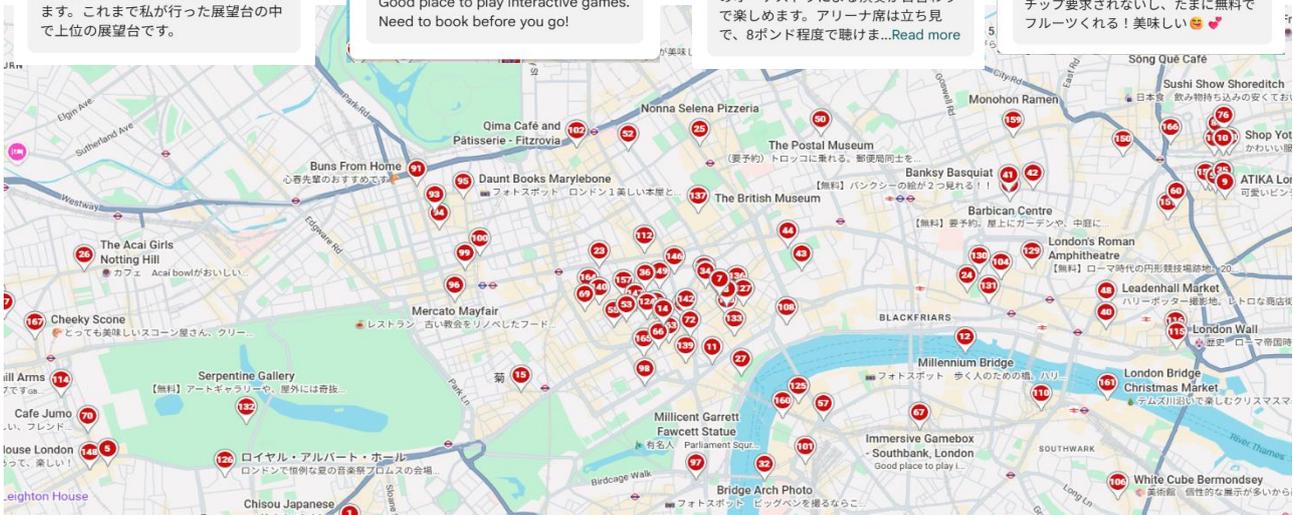
Royal Albert Hall
4.8 ★★★★★ (45,963) ⓘ
Concert hall - ☑

ロンドンで恒例な夏の音楽祭プロムスの会場。7月中旬から9月上旬まで各国のオーケストラによる演奏が日替わりで楽しめます。アリーナ席は立ち見で、8ポンド程度で聴けま...Read more



Arirang Restaurant
4.2 ★★★★★ (1,065) ⓘ
Korean restaurant - ☑
Closed · Opens 12 pm Thu

チップ要求されないし、たまに無料でフルーツくれる! 美味しい! 🍷🍷



T-CAS

毎週水曜の 5・6 限に GS コースの生徒が取り組んでいる T-CAS の後期活動発表会が、2 月 18 日 (水) に行われました。発表会では、これまでの活動を振り返り、それぞれが自身の成長や今後の課題を確認しました。

KO1・2 年生は、来年度も引き続き、充実した活動に取り組んでいきましょう。

なお、T-CAS で英詩の筆写活動に取り組んだ生徒のポスター (右側参照) を掲載しています。ご覧ください。



9、各コースより

サッカーコース

今年度の活動が無事に終了しました。今年度 1 年間の活動を振り返ると、さまざまなことに取り組みました。

5 a side のリーグに参加、プレミアリーグ観戦、スタジアムツアーでのインタビューによるフィールドワーク、外部クラブへのトライアウト、外部チームへの所属、新しい仲間の加入、現地小学校へのサッカー指導、イタリア研修旅行でのセリエ A 観戦など多岐にわたる活動を行ってきました。今年度で 2 名が本校を巣立って行きますが、帝京ロンドンで学んだことや出会ったかけがえない仲間たちを大切に次なるステージでの活躍を期待しています。



アートコース

イタリア研修旅行の事前学習としてオリジナルのフレスコ画表現に挑戦しました。Ko1 の生徒は立体(彫塑)でつくる人体表現、Ko2 の生徒は油絵や日本画体験、Ko3 の生徒は陶芸をおこなったりレジンで空間表現をしたり油絵やレリーフ制作など個人制作の時間を過ごしていました。

ISCA による授業では、Ko1 の生徒は Natural Form(自然形態)をテーマに樹木を表現するための実験、Ko2.Ko3 の生徒は Natural From(自然形態)から発生して生物や猫、自然物に自分の作品をつくる生徒、建築をテーマに建築とファッションを融合させ作品制作をする生徒などオリジナリティ溢れる授業となりました。学園生活では授業を通し、描く楽しみ、創る楽しみ、観る楽しみの3つの基礎を学べたかと思います。これからは、自分の「好き」や「アイデア」を何かしらの形として「表現し、伝え、他者や世界とつながる楽しみや喜び」を抱いていってほしいです。



10、寮便り

学園内にも梅や桜が咲き始め、春の訪れを感じる今日この頃、いよいよ2025年度の寮生活も無事終わりました。保護者の皆さまにおかれましては、本学園の寮運営に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年度も、寮生活を通して生徒たちは共同生活の中で思いやりや責任感を育み、それぞれが大きく成長した一年となりました。日々の生活指導や行事の実施にあたり、保護者の皆さまから温かいお言葉とご支援を頂戴いたしましたことは、私どもにとりまして大きな励みでございました。

来年度におきましても、生徒一人ひとりが安心して充実した寮生活を送ることができますよう、環境整備および指導体制のさらなる充実に努めてまいります。引き続きご家庭との連携を大切にしながら、生徒の健やかな成長を支えてまいり所存でございます。今後とも学園寮の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

【卒業生を送る会】卒業式の前日に卒業生を送る会を行いました。寮生会のメンバーが企画運営を行い、別れを惜しましました。



11、今年度で離任される先生 ネルソン文子校長

このたび、2026年3月末をもちまして、帝京ロンドン学園校長の職を離任することとなりました。これまで本学園の教育活動に温かいご理解とご支援を賜りました保護者の皆様、そして日々学園生活を支えてくださった関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。また、生徒の皆さんとともに歩んだ日々は、私にとって何よりもかけがえのない時間でした。

在任中は、学園教育の充実と将来に向けた基盤づくりに、微力ながら取り組んでまいりました。さまざまな挑戦の中で、教職員が力を合わせ、生徒一人ひとりの成長を支えていく姿、そしてその歩みを温かく見守ってくださるご家庭の存在に、幾度となく励まされました。

また、IBディプロマプログラムの導入・認定、校舎・施設の整備、教育内容の充実など、学園にとって大きな節目となる取り組みに携わる機会をいただきました。とりわけ、初のIB卒業生を送り出すことができたことは、本学園の新たな一歩であり、私にとっても大きな喜びであり誇りです。

何より、生徒の皆さんがそれぞれの個性や可能性を大切にしながら、日々たくましく成長していく姿に立ち会えたことが、校長としての最大の喜びでした。ロンドンでの学びが、皆さん一人ひとりの人生を豊かにし、将来を力強く支える礎となることを心より願っています。

今後も帝京ロンドン学園がその教育理念のもと、国際社会に貢献する人材を育て続けていくことを願ってやみません。学園のさらなる発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、離任のご挨拶とさせていただきます。



帝京ロンドン学園のInstagramは [コチラ!](#) ▶▶▶

